

平成31年度
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
 成果報告書

団 体 名	公益財団法人 神奈川芸術文化財団	
施 設 名	神奈川県立音楽堂	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	30,229	(千円)
公 演 事 業	23,826	(千円)
人材養成事業	0	(千円)
普及啓発事業	6,403	(千円)

1. 事業概要

(1) 平成31年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	開館 65 周年記念・神奈川県立音楽堂室内オペラ・プロジェクト／バロック・オペラ ヘンデル作曲「シッラ」 全 3 幕	令和 2 年 2 月～3 月	ファビオ・ビオンディ（音楽監督／指揮／ヴァイオリン）エウローパ・ガランテ（管弦楽）ソニア・プリナ、ヴィヴィカ・ジュノー、ヒラリー・サマーズ、他	目標値	1,600
		神奈川県立音楽堂		実績値	110 (公演中止のため 事前講座のみ)
2	開館 65 周年記念・神奈川県立音楽堂室内オペラ・プロジェクト／ ボーダーレス室内オペラ 「サイレンス」	令和 2 年 1 月 25 日(土)	アレクサンドル・デスプラ（作曲・指揮・台本・音楽監督）ジュディット・ファー（ソプラノ）ロマン・ボクレ（バリトン）アンサンブル・ルシリン他	目標値	630
		神奈川県立音楽堂		実績値	766
3	音楽堂ヴィルトゥオーゾ・シリーズ（全 4 公演）	令和 1 年 6 月 29 日(土)、 9 月 29 日(日)、11 月 30 日(土)、 令和 2 年 1 月 13 日(月)	中丸三千繪（ソプラノ）佐藤俊介（ヴァイオリン）、オランダ・バッハ協会管弦楽団、アルディッテイ弦楽四重奏団・小尻健太（ダンス）エリソ・ヴィルサラージェ（ピアノ）	目標値	3,070
		神奈川県立音楽堂		実績値	2,395
4	音楽堂アフタヌーン・コンサート（全 3 公演）	令和 1 年 8 月～2 年 3 月	山田和樹（指揮）東京混声合唱団（合唱）山下洋輔（ピアノ）アントネッロ（古楽アンサンブル）ブルーオーラサクソフォンカルテット他	目標値	2,340
		神奈川県立音楽堂		実績値	917 (2 公演中止)
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	

(3) 平成31年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	オープンシアター2019	令和1年6月1日(土)	定方美香・田中愛実(ピアノ)Cユタツヤ(振付・ダンス)山本和智(作曲家)鈴木モモ(ストリンググラフィ)他	目標値	650
		神奈川県立音楽堂		実績値	745
2	三ツ橋敬子の新★夏休みオーケストラ!	令和1年8月14日(水)~17日(土)	三ツ橋敬子(指揮)三浦友理枝(ピアノ)辻博之(合唱指導)ヤマモト万歳(和太鼓・ボディパーカッション)神奈川県フィルハーモニー管弦楽団 他	目標値	743
		神奈川県立音楽堂		実績値	789
3	クリスマス音楽会「メサイア」全曲演奏会	令和1年12月15日(日)	小泉ひろし(指揮)山口清子(ソプラノ)上杉清仁(カウンターテナー)中嶋克彦(テノール)加来徹(バリトン)神奈川県フィルハーモニー管弦楽団/神奈川県合唱連盟 他	目標値	930
		神奈川県立音楽堂		実績値	940
4	子どものためのアウトリーチ事業	令和1年10月~2年1月	丸田美紀、磯貝真紀(箏)若鍋久美子(打楽器)山田亮(ピアノ)糸井奈々(クラリネット)秋山貴之(フルート)神奈川県フィルハーモニー管弦楽団 他	目標値	1,000
		横浜市立小学校 他		実績値	451
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>改修休館を経て令和1年6月より、交付要望書記入の通り各事業の適切な実施を行なった。</p> <p>◎公演事業：音楽堂室内オペラ・プロジェクトは開館65周年を記念して新たに始めた、室内楽の魅力を発信するプロジェクト。1つ目はヘンデルの知られざるオペラ「シッラ」の世界へ発信できる完全舞台版初演を目指した。（本公演は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）理解促進の取組として近隣の文化施設や地域団体と連携し、レクチャーコンサートやマスタークラス、美術ワークショップを実施できたことは、他組織・他ジャンルとの連携、また地域振興という視点からも大変意義があった。一方、映画音楽の巨匠が作曲した日本初演のオペラ「サイレンス」も世界トップクラスの現代音楽アンサンブルであるアンサンブル・ルシリンによる質の高い演奏と日本では希少性の高い室内オペラの上演に、高い入場率を達成し、各所から高評価を得た。音楽堂ヴィルトゥオーゾ・シリーズでは、初登場の名演奏家4組が、古典から現代音楽まで質の高い音楽の振興に貢献した。また公演をより楽しむためのイベントとしてレストランなどの近隣のスポットでのトークイベントを初めて実施し、地域と連携した魅力発信に努めた。音楽堂アフタヌーン・コンサートの世界的若手指揮者山田和樹と東京混声合唱団のコンビを軸に構成したシリーズの4年目ではほぼ完売に近い集客だった。</p> <p>◎普及啓発事業：オープンシアター2019では、ホワイエでのパフォーマンスや、建築見学会や建築講座など多彩なジャンルの文化を提供し、未就学児から高齢者まで多数訪れ、にぎわいを創出することができた。三ツ橋敬子の新★夏休みオーケストラ！は、音楽ワークショップや人気企画のジュニア・スタッフ等を盛り込んだ音楽体験企画を開催し、子供の入場料を無料にしたことでより多くの家族連れが来場した。クリスマス音楽会「メサイア」全曲演奏会は第54回を数える長年継続して開催されている歴史ある音楽会であり、本年も高校生から高齢者まで130名超の県民合唱が世代を超えた交流のもと研鑽に励み、完売に近い集客を達成した。子どものためのアウトリーチ事業は、計画に基づき横浜市内の小学校と県内の特別支援学校等で実施し、障害を持つ子どもと音楽の出会いも促進することができた。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>文化的意義：伝統ある音楽ホールとして、話題性の高い国際的な公演から県民に長く親しまれる参加型公演まで幅広く行い、日本の音楽文化振興に寄与すると同時に子どもから大人、障がい者まで幅広い層を視野に入れた多彩な取組みを通して音楽に接する機会を提供した。特に開館65周年記念の音楽堂室内オペラ・プロジェクトにおいては、国際的な新作オペラの初演プロジェクトを通して、国際交流と音楽堂からの新しい音楽芸術創造の発信の両面を実現した。</p> <p>社会的意義：開館65周年を記念した2つの室内オペラは、批評、マスコミにも多く取り上げられ公演前後、また中止を通して大きな話題となり、「サイレンス」は若い世代を中心に高い集客率を達成し、通常の音楽事業の拮がりを超えた大きな社会的反響があった。記念事業を通して開館65周年を広く告知することができ、我が国初の公立音楽ホールが時間の試練を乗り越えて地域の文化施設や文化センター等との連携を進め、継続して市民文化の形成に取組み、ホールを中心とした豊かな地域づくりに貢献していることを伝えることができた。バリアフリー、インバウンドにも取組み、社会包摂の視点をもって事業実施にあたった。</p> <p>経済的意義：支援により、受益者負担となるチケット料金を高額にすることなく多彩な事業を実現でき、一方、国内の音楽事務所、演奏家、オーケストラ、NPO等の音楽関連事業者、デザイナー、印刷会社等の広告関連事業者、また会場での飲食物販売にかかる福祉作業所、トークイベントの会場とする店舗等多彩な方面への経済波及効果があった。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

目標について以下のとおり概ね達成した。

●公演事業

- ①「室内オペラセット券（2公演）」「ヴィルトゥオーゾ・シリーズセット券（4公演）」「アフタヌーン・コンサートセット券（3公演）」の各セット券の広報と販売を早期、積極的に行い、一人の聴衆が様々な演奏を楽しめるよう促進する。それぞれのセット券購入者が各公演購入者の10%を達成する→[実績]室内オペラ 24.7% 達成、ヴィルトゥオーゾ・シリーズ平均 3.9% 未達成、アフタヌーン・コンサート 5.3% 未達成
 - ②建築見学ツアー、トークカフェ、インターンシップ等の関連企画を各公演に付随して行い、年間のそれらの参加者がのべ170人以上を達成する。実績→のべ479名 達成
 - ③トークカフェや、公演前後の街なか飲食店利用等、公演への来場者の街なかスポットへの浸透が図れるよう努力する。それらの近隣セクター、店舗等との協力・提携件数を平成31年度に7件以上達成する。[実績]11件 達成
 - ④公演来館者へのアンケートにて「室内楽をより多彩に楽しめたか」「音楽堂の魅力に気づいたか」「街の魅力に気づいたか」等の質問を行い、「楽しめた」「気づいた」という肯定的回答50%以上を達成する。→[実績]平均79% 達成
 - ⑤全公演の有料販売枚数が有効座席数の78%以上を達成する。→実績平均46.9% 未達成
- ヴィルトゥオーゾ・シリーズでは音楽堂のめざす方向性の訴求は各種広報でできたが、セット券の売り上げ枚数につなげることはできなかった。館のラインナップの多様性を重視しすぎたため、今後は音楽堂にこれまで登場したことのあるアーティストを含める、互いに親和性のあるラインナップにするなどの配慮をしていきたい。

●普及啓発事業

- ①各プログラムの参加者へのアンケートを行い、「音楽体験が楽しかった」という満足だけでなく、「これからも音楽体験をしてみたいと思った」という音楽への興味関心が高まったとみられる回答が半数以上を達成するようにする。実績→87% 達成
 - ②歴史ある音楽堂といっても、新しい文化施設も多くなった近年は若年層や神奈川県央部等では必ずしも県立音楽堂の認知度は高くない。プログラムを通じて「音楽堂に関心をもった」「音楽堂に（また）訪れたいと思った」といった音楽堂への関心、信頼が高まったと見られる回答が3割を達成するようにする。実績→77% 達成
 - ③普及啓発事業は、事業としてのスキームは継続に意味があり、新規性を求めるものではないが、発展性も求めるため、各事業必ず「昨年度までと違うオリジナルな取り組み」を1件以上は達成するようにする。実績→2件 達成
 - ④特に、幼児、家族、小中学生や高校生等の子どもたちへの働きかけでは、都市部特有の多文化共生社会の実現にむけて、積極的に多言語サポーターの取入れや、外国籍の子どもたちへの働きかけ、障害のある子どもたちへの働きかけを行う。これらの取り組みが、4プログラムで4件以上になるようにする。実績→2件 未達成
- いずれのプログラムも大変盛況で、改めて音楽堂が県民に必要なとされていること、また地域に根ざす公共ホールが求められている内容についても再確認することが出来た。普及啓発事業として日頃音楽堂へ足を運ぶことが困難の方たちへのアプローチはアウトリーチ活動のみならず、多言語分野や福祉の分野でもさらに充実させていく必要があると考えている。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

◎事業期間

改修休館後の令和1年6月から令和2年3月までの期間を十分に使って、止む無く中止になったものを除き、当初の計画通り事業を実施した。

<音楽堂室内オペラ・プロジェクト「シッラ」>

2月23～26日仕込み・リハーサル、以降新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

※12～2月：インターンシップ、ワークショップ等各種関連企画（4本）実施

<音楽堂室内オペラ・プロジェクト「サイレンス」>

1月23日、24日リハーサル、1月25日公演（1公演）計3日

※1月23日プレトーク実施

<音楽堂ヴィルトゥオーゾ・シリーズ（全4公演）>

公演：6月29日、9月29日、11月30日、1月13日（各1公演） 計4日

街なかトークカフェ：5月25日、7月17日、10月27日、11月24日 計4日

<アフタヌーン・コンサート>

8月22日リハーサル、8月23日公演（1回公演）：計2日

10月12日（台風のため中止）、3月20日（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）

<音楽堂クリスマス音楽会「メサイア」>

10月～12月「メサイア未来プロジェクト」の高校生合唱練習延べ8回、大人の合唱練習延べ10回（うち合同練習3回） 12月14日オーケストラ合わせ 12月15日公演：延べ計17日間

<オープンシアター2019>

5月31日搬入・仕込み・リハーサル 6月1日日本番 計2日間

<三ツ橋敬子の新★夏休みオーケストラ！>

8月14～16日搬入・仕込み・リハーサル／関連ワークショップ 8月17日公演・交流会：延べ計4日間

<子どものためのアウトリーチ> 7月10日/9月25日/10月17・18・19日/10月26日/1月16日/2月22日 計8日間

現地での打ちあわせ、会場下見、準備等を除いて上記延べ44日間の事業開催日数となった。

◎事業費

申請した事業全般において台風及び新型コロナウイルス感染拡大のため中止になった公演を除き大きな増減はなく、概ね計画通りに進んだ。

支出・収入総額実績 [バリアフリー・多言語対応/助成対象外経費含む]

公演事業 79,224千円（当初予定額 117,419千円）普及啓発事業 21,966千円（当初予定額 23,522千円）

・最も大きな支出項目は出演費であった。金額の大きかった主な出演者は下記の通り。

<音楽堂室内オペラ・プロジェクト「サイレンス」> 演奏料

<音楽堂クリスマス音楽会「メサイア」> 小泉ひろし指揮神奈川フィルハーモニー管弦楽団

<三ツ橋敬子の新★夏休みオーケストラ！> 三ツ橋敬子指揮神奈川フィルハーモニー管弦楽団

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

全国で最も古い公立の音楽専用ホールとして、また歴史的建造物としての価値も持ち、60年以上を通して神奈川県民の誇りであり、県民が高度な音楽芸術に触れる中核拠点として機能してきた歴史を持つ神奈川県立音楽堂のブランドイメージに即して、音楽事業としての上質性、本物志向を担保することに留意した。

また同時に、平成6年に設立され、オペラ、バレエ、コンテンポラリー・ダンス、現代音楽、現代美術等の幅広い芸術ジャンルにわたって第一線のアーティスト、作品の鑑賞機会を県民に提供し、若手を含む多様なアーティストへの委嘱新作や複合的な芸術ジャンルのコラボレーションを含む前衛的プロジェクトへの取り組みも継続してきた公益財団法人神奈川芸術文化財団の企画・制作力、幅広いネットワークを活用することに留意した。

結果として、公演事業、普及啓発事業いずれも、出演したアーティストの創造性、独創性を存分に生かしたこれまでにない新しい芸術的取組みへの挑戦が実現し、また、地域における館の位置づけを見直し、近隣の文化セクターとの積極的な連携を行った。子ども向けのワークショップやアウトリーチ等であっても、音楽性に特化した内容の濃いプログラムが実現した。

特に創造性が認められた主な取組みは以下の通り。（公演自体は中止も含む）

<音楽堂室内オペラ・プロジェクト>

- ・世界的にも上演の稀な作品の本格的舞台蘇演を日本から発信する国際協働プロジェクト
- ・映画音楽の巨匠が初めて書き下ろす現代音楽の日本初演オペラを音楽だけでなく映像、衣装など高度なレベルで同時代の複合的な表現として提示した作品の上演
- ・近隣の文化セクターとの協働による関連企画の実施
- ・美術ジャンルの関連企画実施による新しい顧客層の開拓
- ・長期間にわたるインターンシップの実施による人材育成への貢献

<音楽堂ヴィルトゥオーゾ・シリーズ>

- ・世界最高レベルの弦楽四重奏団とコンテンポラリー・ダンスの融合による新しい表現
- ・地域の魅力発信と高度な内容を兼ね備えたプレトークイベント「街なかトークカフェ」
- ・第61回毎日芸術賞及び、第70回芸術選奨 文部科学大臣新人賞を受賞したヴァイオリンの佐藤俊介によるタイムリーな演奏会の提供

<三ツ橋敬子の新★夏休みオーケストラ！>

- ・子どもから大人まで合唱を通して音楽を創造する楽しみに触れ、公演当日はオーケストラと共演できる合唱ワークショップの実施
- ・バックステージツアーとミニコンサートを同日に開催

<アフタヌーン・コンサート>

- ・「ジャズ」をテーマに日本各地に残る「紙漉き歌」をアレンジした委嘱作品など2曲を上演
- ・児童合唱曲「くまモン」を横浜市緑区制50周年記念に公募・結成された中学生合唱団が当日駆け付けたくまモンと合唱

<オープンシアター>

- ・ダンサーと音楽家がステージとホワイエで連動したフラッシュモブによる建築空間と音楽ホールの機能の両方を活動したパフォーマンス
- ・子どもむけの建築ワークショップによる音楽堂の建築的価値を伝える活動

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

公演事業・普及啓発事業いずれも、聴衆や地域住民が自ら参加できるプログラムを取り入れたり、また出演者、スタッフも地元の実演家やスタッフを起用することでアーティストと聴衆が交流し、芸術創造活動や参加活動の場となることにより、継続した市民文化の形成ができ、このことにより地域の文化芸術振興の向上に貢献できた。該当する主な取組みは下記の通り。

<シッラ>

- ・レクチャーコンサートを横浜市民ギャラリーと共催し、同施設で開催
- ・舞台美術ワークショップを近隣の現代美術創造の拠点、黄金町エリアマネジメントセンターで開催し、広報協力を得て美術分野からの観客の流動を図った
- ・マスタークラス、インターンシップの募集については県内の音楽大学中心に積極的に参加者募集や広報を行った。

<サイレンス>

- ・鎌倉市の鎌倉文学館の協力を仰ぎ、公演後に作曲家・演出家が登壇したアフタートークに文学館館長が司会進行として登壇

<ヴィルトゥオーゾ・シリーズ>

- ・前川國男建築の魅力を伝えるボランティアグループ bridge による開場前の建築見学ツアーの実施

<オープンシアター>

- ・アーティストの紹介や全体のプログラム進行のプランニングなど、制作協力で地元認定 NPO あっちこっちのスタッフと協働

<三ツ橋敬子の新★夏休みオーケストラ！>

- ・神奈川フィルハーモニー管弦楽団の起用
- ・大磯町立大磯中学校でのアウトリーチ実施
- ・ハワイエでの楽器体験を地元アマチュアオーケストラメンバーの協力で実現
- ・子どもたちのための体験用弦楽器提供等の地元楽器工房の協力

<メサイア>

- ・神奈川県合唱連盟との連携により、県下で活動する合唱団員から公募した合唱団員 135 名による、3 時間近い大曲「メサイアの全曲」演奏。これまで『メサイア全曲』を 3 回以上歌ったことがある」という条件で広く募集をかけた。
- ・うち約半数が県内の県立・私立の高等学校、中等教育学校 5 校の高校生が全曲歌唱に参加する「メサイア未来プロジェクト」の継続。その卒業生である大学生 16 名の参加により、本年度 58 名の若い世代の参加が実現
- ・高校生の発声指導に県内の昭和音楽大学声楽科の学生、大学院生 4 名を各パートに起用
- ・神奈川フィルハーモニー管弦楽団の起用

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

組織活動の持続的に発展し、音楽堂機能を強化するため、以下の取り組みを総合的に行っている。

(1) 関係者ネットワークの強化

- ・関係団体（県公立文化施設協議会、劇場・音楽堂等連絡協議会、公共劇場舞台技術者連絡会等）に積極的に関わり、研修に参加したり、運営ノウハウの共有や相互の人材交流などを積極的に行っている。
- ・インターンシップの実施や、公演の関連企画等を通して教育機関との連携を図っている。

(2) 財源の多様化

- ・手厚いホスピタリティを実現し、長年継続して利用していただくことで、利用料金収入の安定化を図り、効果的な劇場運営に努めている。
- ・寄付金集めの専従担当者を置き、県内の企業及び個人を中心に賛助会員組織を運営しているほか、インターネットを通じた小口寄付の仕組みを整備し、寄付者の拡大を図っている。

(3) 評価と改善

- ・設置者が行う専門家による外部評価のほか、法人独自の外部評価の仕組みを整備し、専門委員による視察と評価会議を開催し、課題抽出と業務改善を行っている。
- ・外部委員と財団職員による検討会を設置して、施設運営についての理念やミッション等をまとめたビジョンを新たに作成し、職員の行動指針として共有していくこととしている。

(4) 人材育成

- ・組織力強化のため、キャリアアップを見据えた人事配置を行い、事業運営・施設運営・経営に強い人材育成を促進している。また外部からの研修生を積極的に受け入れ、業界全体の底上げに付与するだけでなくネットワークの強化にも努めている。